

日本三大船神事

ホーランエヤ

10年に一度の水上時代絵巻、2019年5月開催



二番船

矢田權伝馬

ご 挨拶

時下 ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素から地域の伝統文化資産でありますホーランエンヤに格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

既にお聞き及びのことと存じますが、ホーランエンヤ（正式名称：松江城山稻荷神社式年神幸祭）が2019年5月に10年ぶりに開催される運びとなり、神社はもとより行政及び地元経済界のご支援のもとに、地元五大地では総力を挙げ準備に入っているところでございます。

神事では、何と言っても約100隻にも及び大船行列で、その中心となる「馬潟」、「矢田」、「大井」、「福富」、「大海崎」の五地区が繰り出す豪華絢爛な櫓伝馬船での勇壮な踊りは、松江市指定無形文化財としてその雄姿は全国に発信されています。

当矢田櫓伝馬では、馬潟に次ぐ二番船を誇りに、今日まで地元はもとより地区外の皆さまのご協力により伝承してまいりました。しかし、近年になり担い手不足、資金不足など課題は多く、皆さまのご支援、ご協力を得なければ参加が難しいのが現状でございます。

皆さまにおかれましては何かとご多用のことと存じますが、こうした事情を御賢察の上、矢田櫓伝馬に対しますより一層ご支援とご協力を賜りますようお願いよりお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます

2018年7月吉日

二番船 矢田櫓伝馬

総代長 松浦 哲次

○松江城山稲荷神社式年神幸祭

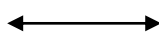
1648年 出雲の国が大凶作の危機に見舞われ、これに心を痛めた松平家初代藩主松平直政公が、当時誉が高く稲荷神社の社司を兼務していた阿太加夜神社の神主松岡兵庫頭に命じ、場内に祀られた城山稲荷神社の御神霊を東出雲町の阿太加夜神社へ船でお運びし、五穀豊穡を祈願された。



松江城山稲荷神社



阿太加夜神社



○起 源

最初の神幸祭から160年後の文化5年（1808年）の御神幸の折、風雨が激しくなり神輿船が危険な状態となったのを、馬潟村の漁師が救い阿太加夜神社まで無事送り届けることができた。以来、馬潟村の権伝馬船が神輿船の曳き船を務めるようになり、順次矢田、大井、福富、大海崎の権伝馬船が参加するようになり、現在の形となった。



渡御祭（船団）



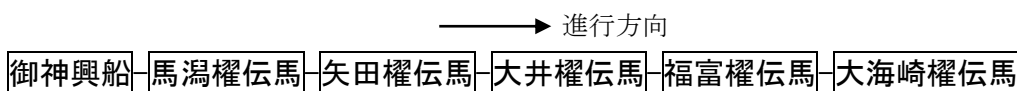
矢田権伝馬船（出雲郷）

○ホーランエンヤ

城山稻荷神社の御神体を載せた船団が、大橋川から意宇川を通して阿太加夜神社に渡る**渡御祭**、阿太加夜神社において權伝馬奉納などが行われる**中日祭**、再び御神体を載せた船団が城山稻荷神社に還る**還御祭**の三つの祭礼から構成される。

權伝馬船での「權伝馬踊り」は松江市指定無形民俗文化財に指定され、權伝馬の順番は、御神輿船を曳く一番船馬潟權伝馬、二番船矢田權伝馬、大井權伝馬、福富權伝馬、大海崎權伝馬と続く。（船行列の順番は逆）

大阪天満宮（大阪市）の天神祭、巖島神社（広島県廿日市市）の管絃祭とともに日本三大船神事のひとつとされる。



渡御祭(とぎよさい) 5月18日(土)

御神体が神輿船に載せられた後に船の一団が出航し、大橋川を下降して阿太加夜神社へ向かう。權伝馬船の上では權伝馬踊りを披露する。

中日祭(ちゅうにちさい) 5月22日(水)

御神体が到着した翌日から7日間の祈祷が行われるが、その中日に阿太加夜神社の境内で權伝馬踊りが奉納される。

還御祭(かんぎよさい) 5月26日(日)

7日間の祈祷が終了した翌日に、渡御祭とは逆の経路で城山稻荷神社まで御神体が運ばれ、到着後に權伝馬踊りが奉納されたて祭礼の幕が下りる。